

2016年度 夏休み経済教室 in 大阪 記録②

8月9日（金）第二日

本日も暑い一日。高等学校向けの教室である。

1時間目：「高校教科書の比較から金融の教え方を考える」

前半は、昭和音楽大学の梶ヶ谷穰先生、後半は同志社大学の野間敏克先生ご担当である。

前半の講義の詳細は、東京（高校）の第一日目を参照されたい。

後半は、同志社大学の野間先生からの「梶ヶ谷報告へのコメント&直接金融・間接金融の教え方：再論」の講義が行われた。こちらの内容も、東京と同様であるが、大阪ではコメントは短めに本題に入られた。

【質疑】

- ①パワーポイントの内容についての質問「日銀資金勘定の+は何を示すか」
- ②「クレジットの内容を授業では扱うが、利息制限法の記述がないのは？」
→日文の教科書（中学）にはある

2時間目：実践紹介「公共料金の経済学」～市場における政府の役割を考えてみよう

前半は東京都立府中東高校の塙枝里子先生、後半は慶應義塾大学の加藤一誠先生ご担当である。

(1) 塙先生による授業提案

東京の第一日目を参照されたい。

(2) 加藤先生のコメント

加藤先生からは、塙先生の報告の中で、特に難解であろう「死荷重」という言葉の丁寧な説明があった。続いて、なぜ公共料金といわれる業種では独占が認められているのか、いくつかの経済的な要因を説明された。そして、ご自身の専門の交通経済学の視点から、タクシーや航空路線の料金や独占（寡占）についての説明がなされた。

【質疑】

- ①塙先生へ「株式学習ゲームなど、講義と実践（体験）をどう関係づけているのか 体験をどのように講義に活かしているのか」
→実際の授業では講義が多い。株式学習ゲームは教員になる前からやりたかったことなので、続けている。ただし、その際パーソナルファイナンスとコーポレートファイナンスを分けて考えたい。株価の変化の因果関係を理解させたり、個別株での分析もさせたりしている。
- ②栗原先生からコメント「高校教科書で公共料金の記述がないが、清水書院『新政経』では扱われている。中学では見開きで扱われている。」

3時間目：「高校教科書で教える起業から上場まで」

詳細は、名古屋の二日目を参照されたい。

【質疑】

- ① 「合同会社の説明が難しい。西友とケロッグで説明があったが…」
→小さな会社が定款を決められる。合同会社は脱退時に出資金も返金され離れやすい。
取締役会が不要なことや決算の義務がないことはメリットが大きい。
- ② 持株会社で何かコメントがあれば」
→金融子会社があることは都合が良い。登記のコストがないことも魅力
- ③ ポケモン（任天堂）がストップ安となった理由は？」
→開発会社から任天堂に利益がいくと誤解されていた 投資家にとってうまみがないと投資家は売りに入る
- ④ 東証と大証の合併があったが、他の取引所が日本で一つになる可能性は？」
→まとめたほうが良いという意見は、以前から取引所以外にも金融業界全体を含めて1つになる可能性もある アジアの金融がシンガポールに集約する計画もあり、事実これを見越して証券会社がすでに移転している

4 時間目：「高校教科書で教える 18 歳選挙権～民意の反映と社会的選択」

講師は、日本大学経済学部の中川雅之先生である。詳細は名古屋の二日目を参照されたい。

【質疑】

- ① 総選挙の年代別投票率の変化の理由は？」
→分からない
- ② なぜ小泉内閣の時投票率が上がったのか」
→選挙は長期的に冷静に考えて投票するしくみ。自分の将来に責任をもつ社会人育成が欠かせない
- ⑤ どういう世代をターゲットにしているのか」
→政治との距離感が大切。意識する必要性。カナダでは第三者機関がマニフェストを整理するしくみがある。

文責 升野伸子